

2013年(平成25)5月

カルメル
霊性センターニュース



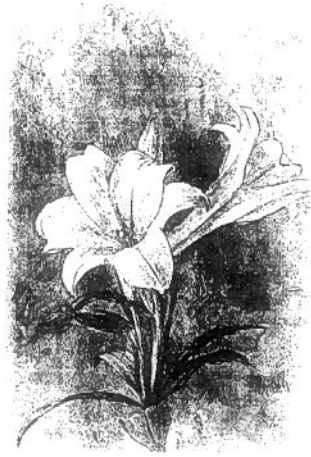
2013年5月

287号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	19
諸所の企画案内	31
年間購読(郵送)のご案内	42
編集後記	43

心の泉



DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第一巻

第二十五章 生活を熱心に改める

9 つねに神をあがめる

ああ、心と口とをもって主なる神をほめたたえる以外の務めが、私たちになかったならば！食べ、飲み、寝る必要がなく、いつも神をほめたたえ、霊的なことだけを考えて、日々を過ごせるものならば！もしそうであれば、体の必要のために心をつかわねばならない今よりも、はるかに幸せであろう。そういう必要がなくなって、霊的な糧だけを求められるものならば！しかし、不幸にも、私たちがそれを味わうのは、ごくまれなことである。

10 神はわたしのすべて

どんな被造物にも慰めを求めないほどの完徳に達すれば、人はその時、初めて完全に神を味わい、どんなことがあっても喜びのうちにあるのである。そうならば、その人は、どんなに多くのものを持って、さほど喜ばず、少ししか持っていなくても、悲しまない。その人は、「すべてにおいてすべてである神」（コロサイ 3・11 参照）、つまり、神においては、何ものも滅びることなく、死ぬこともなく、神のためにすべてのものが生き、その命令に万物が従う神のみ手に、自分のすべてをゆだねているのである。

信仰年に

神と親しく生きるために - 5 -

花々が咲きそろう、新緑が目にしみる季節となりました。5月はマリア様の月です。13日には「微笑の聖母」と「ファチマの聖母」の執り成しを特別に思い起こします。テレーズの不思議な病を癒された微笑の聖母、1981年教皇パウロ二世へ向かう銃弾の軌道を導かれた母マリア。

信仰年にあたり、わたしたちのナザレトの生活、日常生活の中で母マリアをさらに深く信頼したいものです。

マリアは

教会の中で

弱く 貧しい人々を

ご自分が 特別に

保護する者と みなされます*



教皇パウロ2世 ファチマにて

母は 弱い子供を守るために 存在しているかのようです。

ですから 子供が成長し

自分の足で歩けるようになると母は姿を消します。

それは当たり前で 自然の秩序にかなっています。

そして 母は子供が成長したのちにも

その子が子供のときにもっていた弱さに 再びぶつかるとき
また姿を現します。

その弱さが 彼のあやまちの結果であれ 災難の結果であれ

母は悲嘆のうちにある子に対して

たとえ彼が成人となっても 再び母の心を現します。*

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

* 『いのりの道を行く』聖母文庫、聖母の騎士社

平和共存

くのり 彰

このところ、尖閣諸島や竹島問題、さらに靖国神社問題等、隣国との関係がぎくしゃくしている。国と国との間もそうだが、一つ屋根の下での平和共存もなかなか大変である。嫁姑のいさかい、夫婦げんか、親子げんか、兄弟げんかなど、いろいろある。

これを避ける手っ取り早い方法は、当事者同士がしばらく顔を合わさないようにすることである。顔を合わすと、昨日の一戦を思い起こし、頭に血がのぼり、小競り合いが始まる。停戦期間を置き、頭を冷やすのが良い。

とはいえ、これにも限度がある。宮殿かホテルのような家であれば、何日も顔を合わさないですむだろうが、一般家屋では難しい。また食事の時には、どうしても顔を合わさなくてはならない。籠城作戦を取り、自分の部屋で食事を取るとしても、孤独に長い間耐えられるだけの心の強さが求められる。

これは、ある方の若い時の話であるが、どこかに出かけて、家に戻ったところ、自分の書斎がきれいに片づけられている。奥さんが気を利かせて、乱雑な部屋を丁寧に整頓してくれたのである。しかしその方にとっては、どこにどの本があるのかまったく分からなくなり、「仕事ができない！」と、烈火のごとく怒ったら、三日間、口をきいてくれなかったという。

ダンマリ作戦であるが、これは無用な戦いをせず、エネルギーの消耗を避けるためには良い。だが、問題の根本的な解決とはなっていない。

真の平和を回復するには、自分の主張を絶対視せず、相手の主張に耳を傾け、単なる妥協ではなく、二つの相反する主張の間に、新しい創造的次元を見出すことであろう。そのためには、互いに謙遜になり、赦し合わなくてはならない。実に、キリストは、最後の晩餐において、自己主張ではなく、弟子の前にへりくだり、愛をもって仕えていく道を示された。

ところで、主であり、師である私があなた方の足を洗ったのだから、あなた方も互いに足を洗い合わなければならない。(ヨハ 13・14)

いさかいやけんかは避け難い。が、家族や夫婦や人間として成長していく貴重な機会なのである。核家族化、少子化の現代人は、この機会を逸し、人間的になかなか大人になれなくなっているのではないか。

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (69)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

イサベル姉妹、私を愛していますか

このイサベルは、セゴビアの跣足カルメル会の修練者でした。可愛らしい人でした。十字架のヨハネは、彼女をととても信頼しており、父親のような愛情を示しました。ある日、出しぬけにヨハネ修士はたずねました。

「イサベル姉妹、私を愛していますか」。

彼女は、とても、それはとても愛していると言いたかったので、自分の語彙の中から一番意味深い表現を探して、こう言いました。

「ええ、神父様。私はあなたを *fingidísimamente**愛しております」。そしてこの言葉をはっきりと繰り返しました。

聖人は珍しく笑い、ふたたび彼女にたずねました。

「それでは、私の娘よ、あなたは私を愛しているのですね」。

「ええ、神父様」と彼女は喜びいっぱいに答えました。

ヨハネ修士は、会話を次のように言って、閉じました。

「それでは、私があなたをととても愛しているのは、そのようにあらかじめ定められているからですね」。

その後、聖人の列福、列聖の裁判において彼女に証言する機会が与えられたとき、聖人についてたくさんの良いことや美しいことを話しました。例えば、「…神父様は、私たちの主に対してとても大きな愛を持っておりました。というのも神父様は、いつも神について良いことばかり話されたので、いい加減であったこの証人（訳注：イサベル姉妹のこと）も、もっとよく私たちの主に仕えるよう促されるのを感じました」。

「…神父様は、隣人の善益や慰めのために私たちの主の大きな愛をもって対応されていました。告解を聞くときも人々を慰める時も」。

「…くだんの聖なる十字架のヨハネ神父は、数冊の霊的書物を書き残されました。その中から聖なる神父は、この証人に、手書きの40の歌をくださいました」。

幸いなるイエスのイサベル姉妹は、十字架のヨハネ神父の手から受け取った『霊の賛歌』と共に、聖人を、*fingidísimamente* でなく、つまりまったくの見せかけでなく、大きな愛情をもって愛しました。

* *fingidísimamente* : *fingido* 「見せかけの、うわべだけの、偽りの」といった意味の形容詞の最上級の副詞形。したがって、「まったくの見せかけで」といった意味となる。おそらく「無限に」とか言いたかったのであろう。

「わたしは、あなたがたといたときに、これらのことを話した。しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる」(ヨハネ 14, 25)。

この言葉は、最後の晩餐でのイエスの「お別れの説教」と言われる「ヨハネによる福音」の長大な箇所(参照ヨハネ 13 - 17 章)から取られています。この説教において、師イエスは、ご自分の弟子たちと共にいる現存の様式が、十字架の死、復活、昇天(高揚)を経て、現状とは異なる様式になっても、弟子たちがイエスの弟子であり続け、むしろより深く生きていける秘訣を開示しようとしています。イエスは、弟子たちと共に生きた地上の生活で、言葉と生き方そのもので教え、諭されました。弟子たちは、その教え、お言葉を心に納め、指針、光として生きてゆくべきです、がしかし、直面する状況は、イエスが自分たちと共に生きていた時のものとは異なるものでもあるのです。例えば、今日の主日の典礼での第一朗読は、いわゆる第一回のエルサレム使徒会議の状況を描がいています(参照使徒言行録 15, 1 - 2; 22 - 29)。そして、そこで扱われた問題は、異邦人たちを割礼なしに信仰共同体に迎え入れることの是非でした。この種の状況、問題にイエス自身は直面していません。使徒たちは、社会状況での有利、不利や世間的都合を度外視して、イエスのお言葉、口によるものと生き方による言葉を判断基準に、決定を下さなければなりません。このとき、イエスのお言葉を思い起こす、それも、ただの語句の字面をではなく、その言葉のイエスの思いの中での意義、深さを把握し、新しく直面している未知の状況の中に適応してゆく、この任務が、使徒たちに期待されるのです。同じ言葉であったとしても、人間が自分の知的能力や体験で把握し、理解したものに留まるのではなく、その狭い領域を超えて、イエスの思いの中での意義を探らなければ、本当に神の望みを実現してゆくとは言えません。イエスの言葉が、正しく思い出され、理解され、実践される、このために、人間の次元を超えた愛に満ちた知恵、御霊の照らし、勧めが、必須なのです。この意味で、聖霊が、「あなたがたにすべてを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる」と言われています。エルサレム会議の結論は、「聖霊とわたしたちは、次の必要な事柄以外、一切あなたがたに重荷を負わせないことに決めました」(使徒言行録 15, 28)と、教会を全世界的な展望に開く決定でした。神は、御言葉と聖霊、この二つの腕で、新しい道を開拓する教会を導いています。ルカ渡辺幹夫

主の昇天

みことばのひびき

(ルカ 24 : 46 ~ 53)

昇天の祭日は栄光の復活の後40日目に、キリストが弟子たちの目の前でご自身の力で天に昇られたことを記念します。イエスの昇天はこの世におけるイエスの贖いのわざを完成しました。栄光の復活とご昇天の日の間に何百人もの人々に何回も出現されたことを通して、イエスは二つの事柄を証明されました。まず第一にイエスはメシヤを約束されました。第二には、死に打ち勝ったイエスを通して生きている信仰を持ち続ける人もまた死に打ち勝ち、神のみ国を相続するということです。

御父と同じ栄光を分かち持つように高められたときイエスが心の高揚を感じられたことを、本日昇天の祭日に思い出します。イエスは弟子たちを離れる前、彼らにミッションを与えられます。イエスご自身のミッションはイスラエルの民に限られていましたが、弟子たちには世界中に続けるように命じておられます。イエスご自身ができなかったことを弟子たちはできるのです。「私を信じる人は私が行うわざを行う；それよりももっと偉大なわざをおこなうであろう、私が御父のもとに行くからである。」弟子たちは全世界に福音を教えることができます。このミッションは人々に福音を説くこと、第二にイエスの癒しのわざを続けること、第三に聖霊からの力を受け取り、最後にキリスト者の共同体が決して孤立しないことを含みます。御父である神、御子イエス、そして聖霊は常に彼らとともに現存されます。この祭日はイエスが私たちの心の中に現存されることを思い出させてくれます。イエスは使徒の教会に現存されます。イエスは物理的にご聖体の中に、ご聖櫃の中に現存されます。神秘的に思えますが、イエスが昇天されてしまった間も、私たちの信仰はイエスがまだ私たちといっしょにここにおいでになることを確認します。

主の昇天はイエスがメシヤであることを断言します。罪の悔い改めと赦しを宣言することはイエスの「み名において」宣言されることであると聖ルカは強調します。「み名において」を強調することは、信仰者の信仰を旧約の神であるヤーウェからイエスの神性へ転換することです。主イエスの昇天は聖霊の神性の働きの始まりへの扉を開きました。主であるイエスはここで両手を上げて弟子たちを祝福されました。イエスの祝福は普通の祝福ではありませんでした。それは真に高位の司祭、即ち永遠の司祭であり、御父のもとに戻られた方からの祝福であります。全てのキリスト者の生きている希望であるご昇天の瞬間はキリストの第二の到来であります。これは罪を扱うためではなく、キリストを熱心に待ち望んでいる人々を救うためのものです。それはまた、キリストがご昇天以来ずっと神と人類の間の仲介者であり続けるという希望であります。主の昇天は以前に起きたことですが、今日の世界でキリストのあかし人になるために、キリストの別れの言葉を心に留め、使徒たちのように勇気をもって実行するべきです。

(Sr. Paulina)

「父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください」(ヨハネ 14, 16)。

ここで、イエスは、別の弁護者と言っておられる、それは、第一の弁護者は、イエスご自身であるからです。「御父のもとに弁護者、正しい方、イエス・キリストがおられます」(1ヨハネ 2, 1)。弁護者は、慰め主とも訳出できる単語です。イエスは、人間の一人となって人間が遭遇するすべての状況を、そして、すべての中で愛を生き抜かれた方です。その弁護、慰めとは、人生の苦境を取り除くことによってではなく、わたしたちに神も、隣人をも忘れさせ、自己中心的感情に捕らわれるままにする苦悩の状況をも、愛を実践する場に変容することによって、与えられてくるものなのです。イエスが受難の前夜、オリブ山で苦しみもだえて祈られたとき、天使が天から現れて、イエスを力づけたように(参照 22, 42 - 43)、苦しみを御父への従順の内に生ききらせるもの、それが慰めなのです。イエスは、第一の慰め主として、人間の生のすべてを御父への従順と人々への愛のうちに生きられた。そのイエスが、別の弁護者、慰め主を約束される。この約束は、イエスの不在を前提としているかのようです。それは、イエスの現存が、わたしたちの視力では確認できない状況に転移されたとしても、それがイエス不在ではなく、もし、わたしたちに別の新しい視力が与えられれば、イエスの現存を確認できるのです。「わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる。わたしが去っていかなければ、弁護者はあなたがたのところに来ないからである。わたしが行けば、弁護者をあなたがたのところに送る」(ヨハネ 16, 7)。イエスは、ご自分から積極的に不在となることを受け入れ、その不在の真実な意義は、人間の知恵には見抜けない神秘の根底にあるもの、聖霊の到来であると断言されます。実に、聖霊は、第一の慰め主イエスの不在、いや、人間の目には不在と見える状況と深い関係があるのです。それは、もっと正確には、すべてを完成に導いておられる主イエスの現存は、人間の目には不在と見えるほど事物の根底深くに隠されている、それは、人間の自然的の力の及ぶ領域を超えている、聖霊に動かされる信仰の目だけに許されると。実に、イエスの昇天後の時代に生きているわたしたち、教会共同体は、地上のイエス、あるいは、復活のイエスに出会うことはない、しかし、それだからと言って、イエスから離れているのではない。聖霊によって、すべての状況を隠れて完成に導いておられるイエスに、今日、真実に出会うことができる、イエスが御父のもとから送られる聖霊による信仰、希望と愛の実践の内に。ルカ渡辺幹夫

三位一体の主日 (ヨハネ 16: 12-15)

今日は三位一体の主日、三位一体の神の祝日です。全く別々の三つのペルソナを持つ三人のお方でありながらいつも共におられる神であることを信仰は教えています。またこの神は人間と深く密接に関わっておられ、人間に御子と聖霊を送って下さったことを信仰は教えています。先ず初めのお方は御父です；御父は御子のいのちの源ですから御父と言われています。第二のお方は御子と言われます；御父からご自身のいのちを受けられたからです。御父と御子は人間が考えられないほどの全く完全な愛をお互いに交わしていらっしやいます。その愛はあまりにも完全なので、一つのペルソナを持つ聖霊となっています。ですから第三のお方は御父と御子が交わされる愛で、御父と御子の間の一致の絆です。日々の祈りや信仰の実践において父と子と聖霊の御名ほど度々使われている言葉はありません。仕事を始めるときに、また終えるときに十字架のしるしをしながら御名を唱えます；三位一体の御名は全ての祈りに見出され、三位一体の神はキリストに従って行く生活をより豊かに完全に歩むために、いつも心に留めているべきお方です。

聖三位一体の祝日は神が愛の家族であることを思い起こさせます。聖書は三位一体の神が真の三人のお方でありながら、その単一性を明らかにしています。勿論、唯一の神が三人のお方でありうることを十分に理解することはできません。信仰によって、また神のみことばを信頼することによって、この三位一体の神はいつも生活のうちに現存なさり、わたしたちを導き、保護し神がお望みになる姿にしてくださいます。このような訳で、聖パウロは、神の愛は既にいただいている聖霊によってそれぞれの心に注がれている、と言っています。聖書において聖霊の二つの大切な局面が強調されています；聖霊は共同体の中のイエスの絶え間ないご現存であること、そして聖霊は師であり証人であることです。

最も聖なる三位一体の玄義は、キリスト者の信仰と生活の中心的な神秘です。それは神ご自身の内なる神秘です。ですからそれは信仰についての他の全ての神秘の源であり、それらを照らす光です。それは“信仰の真理である聖職者の位階制度”を最も基本的、本質的に教えています。救いの歴史の全ては、唯一の真の神である父と子と聖霊がご自身を人間に明らかに示され、罪を捨てた者たちと和解し、神ご自身に結ばれた者としてくださるその方法や手段を示す歴史です。キリスト者にとって今日の祝日は、全ての祈りの中で最も慣れ親しんでいる祈り、十字架のしるしをするとき、その偉大な意味を思い、崇敬の心を持つ必要があることを思い出させます。十字架のしるしは三位一体の神秘と、イエスの受難と死、復活を通して成就された救いの神秘を結び合わせています。十字架のしるしをもっと大きな愛と畏敬の念と真の祈りの心をもってするよう決心しましょう。全く完全な譲渡と平等性を保つ三人のお方の共同体である、三位一体の神に心を向けましょう。わたしたちはこの神のイメージのうちに創造され、少しずつこのイメージのうちに成長するよう召されています。それは調和と平和、喜びの世界です。

(Sr. Paulina)

NHK朝の連続ドラマの時間は、私にとってドラマを観るだけでなく、生活のめりはりの役目ももっていて、一日の始まりである朝の時間を区切り、段取りを作り、気持ちを整える恰好のものなので、その時間は必ずテレビの前に坐っています。

何とほぼ半世紀にもわたって、内容など次々と忘れてしまうとはいえ、こうして莫大な数のドラマにつき合ってきたことになります。あらためて気にとめてみて我ながら驚きますが、このこと自体がちょっとしたドラマであるかもしれせん。

前回の「純と愛」も同じようにして、毎朝毎朝登場人物たちの行く末を案じ、苦楽に感じ入りつつ、私自身の今日の日の幕開けとしてきました。

その「純と愛」にこんな場面があったのを覚えておいででしょうか。

主人公の待田純という若い女性が、ひらがなの中で好きな字はどれかと訊かれて「と」と答えるのです。「と」というのは、ロミオ「と」ジュリエットのよに人と人をつなぎ結ぶ字であるからというのがその理由でした。

純はその言葉通りに人と人とをたくさん結びます。情熱を傾け、根気よく、誠実に、がむしゃらに、懸命に、不作法に、身勝手に、よけいな世話さながらに、人に関わり関わり続け、人を傷つけ、自分も傷つき、こうして人と人を結び、こうして自分も成長するのです。まっすぐで、ひたむきで、いたいけで、純という名にふさわしいヒロインでした。

ドラマは3月に終わったのですが、なぜか「と」が私の心に残ったのです。

そうか「と」なのかと感心したり感動したりしていたのですが、よくよくじっくりと考えてみれば、私は「と」より「と」抜きがいいと思いついたわけです。二人が「と」によって結ばれているのもほんとうですが、「と」によって二つのものが分けられるのも事実なのです。結ばれるのなら「と」抜きがいいと思いました。ロミオ「と」ジュリエットではなく「ロミオジュリエット」がいい。

例えば、カウンセリングの場では、二人称代名詞は要らないと云われます。「あなた」と云うとき必ず一方に「わたし」が相対していて、共感共有など成り難いのです。ほんとうに共にするのなら、そこにはもはやあなたとわたし

の区別はなくなるからです。

或る映画で、わたしはあなた、あなたはわたしと切々と歌われる主題歌がありました。恋に墜ちた二人に「と」はないのでしょうか。

また、夫婦という関係も、いつしかその関わりは肉親化するというのでしょうか、深まる独特の関わりには他の誰にも代わることの不可能な、境界を越えて溶け合うような、即ち「と」抜きとの関係が訪れるように思っています。

以前、夫婦の愛は「閉じた愛」なのだと言われ、その表現に深く心動かされたことがあります。確かに対象はただ一人であり、普遍である筈もなく、その意味では恋に墜ちた二人と同じと云えるかもしれません。

更にまた、その排他性をいうのなら、神を恋い慕う魂、靈的ヴィルジニタスと称される花嫁の究極のエロスの愛も然りでしょう。探し求める花婿はただ一人、神以外の一切全てを退けて、たゆみない意志をもって無我夢中で強く強く引き寄せられていくのですから。

だからこそこの花嫁を迎える婚姻の宴は「と」抜きがいい。

果てない前途への賭け、荒野の孤独、すべ尽きる闇への投身・・・一身の内も外もあらゆる全てが、愛するお方と結ばれるこの時のためにあったのなら、この時への備えであったのなら、たとえ一瞬でいい、大海に抱かれる一滴のように境を失って溶け合うのがいい。花嫁の望みが成就するこの時こそは、正真の自己放棄の時であり、再度の180度の回心の時であり、迎ってきた道程を振り向き、帰るべき地の表を瞳に映し受け入れる瞬間であるのでしょうか。密やかな排他の世界は、地の表へ向けて今こそ広やかにいっばいに明け放たれるのでしょうか。花嫁の婚姻は「と」抜きがいい。

父と子と聖霊は「と」でつなぎ結ばれ一体であると宣言されます。

「と」抜きへの思いは今ここに治まり静まります。「と」と「と」抜きの神秘と云うしかありません。「と」でつながり結ばれるものは、ここに倣うかのようにみなどこかで一体の相を呈するのだと思っています。

毎朝の15分刻みの連続ドラマです。ささやかな日常のひとこまで。

私の今日が始まります。「と」が結ぶ相手がきっと今日いるでしょう。

今日のなかに私の「と」のドラマがある筈です。

しっかりと注意をもって今日という外へ出たいと思います。

いのちの言葉 5月

与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。
押し入れ、揺すり入れ、あふれるほどに量りをよくして、ふところに入れてもらえる。

(ルカ 6・38)

あなたは、友人から贈り物を受け取って、お返しをしたいと思ったことはありませんか。「借りを返したいから」というのでなく、真心の愛と感謝の思いから、そうしたいと思ったことが、きっとあるでしょう。

もしあなたにとってそうならば、愛そのものでおられる神にとっては、なおさらのことでしょう。

私たちが隣人にする贈り物すべてに対し、神はいつもお返しをしてくださいます。これは、真のキリスト者が頻繁に味わうことです。毎回、驚きを伴う経験であり、実にバラエティに富む神の与え方に、私たちは決して慣れることがないでしょう。こうした経験の例を、私は何千何万と挙げることができますし、一冊の本を書くこともできるほどです。神がしてくださるお返しの豊かさ、その寛大さを意味する「押し入れ、揺すり入れ、あふれるほどに量りをよくして、ふところに入れてもらえる」という表現が、どれほど真実であるかを、あなたも目にすることでしょう。

ローマのフォコラーレでの出来事です。小さなアパートには、福音のみ言葉を生きようとする、数人の若い女性が住んでいました。ある晩、もう休む頃に、ブザーが鳴りました。「こんな時間に、いったい誰だろう」と思いつつ、出てみると、一人の男性が立っていました。絶望し、パニック状態のその人は、家賃が払えないため、明日には家族ともども家を追い出される、と言いました。女性たちは顔を見合わせて、無言のうちに同じ考えを持ち、机の引き出しをあげました。そこには、彼女たちの給料や、ガス・電気・電話代にあてられるお金が、いくつかの封筒に分かれて、入っていました。彼女たちはあれこれ考えず、引き出しにあったお金を全部、彼に渡しました。「自分たちのことは神様が考えてくださる」と信じ、喜びのうちに休みました。

しばらくして、まだ夜も明けないうちに、電話が鳴りました。あの男性からで、「これからタクシーで、すぐそちらに行きます」と言うのです。「タクシーまで使って？」と驚きながら、待っていると、到着した彼の顔から、何か変化があったことが汲み取れました。「昨晚家に戻ると、遺産相続の連絡が入っていました。自分が相続できるとは思ってもみなかった遺産です。半分は皆さんにお渡ししなければ、と思い、参りました。」それは、彼女たちが寛大な心で彼に手渡したお金のちょうど二倍の額でした。

与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。押し入れ、揺すり入れ、あふれるほどに量りをよくして、ふところに入れてもらえる。

このような経験を、あなたもしたことがありますか。まだだとしても、贈り物は、見返りを期待せず、相手を選ばずにするものだ、と心にとめましょう。

ためしてみましよう。結果を見るためではなく、神を愛するために、やってみてください。

「でも、私は何も持っていません」とおっしゃるかもしれません。

そんなことはありません。気持ちがあるなら、私たちには尽きぬ宝があるはずです。自由な時間、心、ほほえみ、アドバイス、教養、心の平和などを与えられますし、また、持っている人がそうでない人に与えるよう、勧めることもできるでしょう。

「でも、誰に与えたらいいかわかりません」とおっしゃるかもしれません。

まわりを見渡してみましょう。入院中の知人、ご主人を亡くされいつも一人ぼっこの奥さん、留年が決まり気を落としている友人、失業中で元気のない青年、助けが必要な幼い弟、服役中の友人、覚えの悪い新入社員…こうした人々の中で、キリストがあなたを待っておられます。

私たちはキリスト者として、福音の精神に満ちた、新たな姿勢で生きることができるでしょう。それは、自分の中に閉じこもったり、心配するのは、逆の生き方です。地上の富ではなく、神を信頼しましょう。やがて神から届くお返しの贈り物は、私たちの信頼に裏付けを与えてくれるでしょう。

神がこのようにされるのは、むしろ私たちを裕福にするためではありません。私たちが与えることで、小さな奇跡が起こり、それを他の多くの人が目にして、同じように生きようになるためです。

神がお与えになるのは、私たちがたくさん持つほど、さらに与えることができるからです。また、まわりの人々と何でも分かち合うことにより、エルサレムの初代キリスト者共同体について言われていた「彼らの間では、一人も貧しい者がいなかった」¹という言葉が、私たちの間でも実現するためです。

このように生きるなら、私たちは、世が待ち望んでいる新たな社会の建設に、堅固な魂を据えることにはなりませんか。

「与えなさい。そうすれば、与えられる。」イエスはこう言われた時、私たちが天国で得る報いを第一に考えられたでしょうが、地上で起こる出来事は、天国の報いの前触れであり、それを保証するものなのです。

キアラ・ルービック

* 今月の言葉は1978年6月に発表されたものです。

★ [いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。](#)

● お知らせ

いのちの言葉の集い

関東 5月12日(日) 13:30~ 神奈川 加リツク藤沢教会 204号室

(週日に、吉祥寺、調布、鷺沼、藤沢、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

マリアポリ

7月13日(土)~7月15日(月・祝) ^{とうしやうかん} 東照館(山梨県南都留郡山中湖村平野 210)

* 詳細は各フォロー・センターまで。

連絡先

フォコラーレ: 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail: tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ: フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

¹ 使徒言行録 4・34 参照

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（165）



存在が与えられていること

私たちは何者なのでしょう。私たちは自分が行っているところの者なのでしょう。他の人々が私たちについて噂しているところの者なのでしょう。私たちが持っている能力でしょうか。しばしばそれらが、社会における捉え方のように思えます。けれども私たちに与えられているイエスの霊は、私たちの真の霊的アイデンティティーを啓示しています。その霊は、私たちが成功や名声や力の世界ではなく、神に属していることを啓示しています。世界は、恐れによって私たちを奴隷化します。しかし霊は、私たちをその奴隷状態から自由にし、真の関係を回復させるのです。したがって、パウロが次のように言う時、彼が意味しているところは、次のようなことなのです。「神の霊によって導かれる者は皆、神の息子（娘）なのです。あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によって私たちは、『アッバ、父よ』と叫ぶのです」（ロマ 8・14-15）。

私たちは何者なのでしょう。私たちは、神の最愛の息子、娘なのです。
(0610)

神を「アッバ」と呼ぶ能力が与えられていること

神を「アッバ、父よ」と呼ぶことは、神に親しみのある名前をつけることとは異なります。神を「アッバ」と呼ぶことは、イエスが持っていたのと同じ、神との親密な、恐れのない、信頼に満ちた、委託される関係に入ることなのです。この関係は霊と呼ばれ、この霊は、イエスによって私たちに与えられ、彼と共に「アッバ、父よ」と叫ぶことを私たちに可能にさせてくれるのです。

神を「アッバ、父よ」（ロマ 8・15、ガラ 4・6 参照）と呼ぶことは、心の叫びであり、私たちの最深奥からほとぼしる祈りです。それは、神に名前をつけることとはまったく関わりなく、私たちの存在の源泉としての神に嘆願することに関わっています。この嘆願は、突然の洞察とか徐々にかち得た確信から生じてくるものではありません。それは、イエスの霊と私たちの霊との交わり中でなされる嘆願です。それは、愛の嘆願なのです。
(0611)

(九里 彰訳)

*****絵本のための小さなおはなし*****

「青いそよ風が吹いているすずらんの絵のお話」

昔々、宇宙が始まる前にひととのすずらんが咲いていました。
神の息がさわさわとゆらしていました。

そして宇宙が終わった後にもそのすずらんは咲いていました。

すずらん。 それはマリアさまの涙。 それは神の憐み。



跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



<< Communications (時事通信) >>

メキシコは聖テレジア生誕500年記念祭に向けて準備中

メキシコ発 2013年4月12日 クラウディア・モルクェト

500年記念祭は、日常的な出来事ではありません。2009年のカルメル会総会によって全世界に送られた招きに従って、メキシコの聖アルベルト管区は、イエスの聖テレジア生誕500年記念祭の開催に向けて準備中です。総会の計画にあるように、主な目的は、聖女の著作を通して、聖女についてよく知り認識することです。その著作は、貴重な遺産です。なぜならそれらを通して、創立者であるテレジアは、生誕500年後にも、聖女が生きたカスティージャから遠く離れた所にいる私たちに、祈りや共同体生活や教会への奉仕について教えてくれるからです。

メキシコ管区長のエンリケ・カストロ神父のもと、500年記念祭実行委員会が提案したプログラムに則り、毎年、聖女の本を1冊ずつ共同体で読むことに、重点が置かれています。

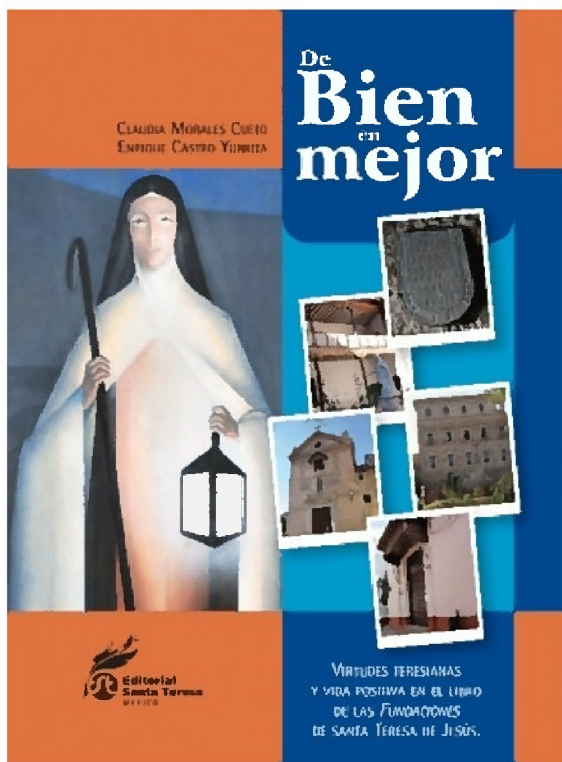
来月5月に、メキシコは、ラテンアメリカ霊性大会を“イエスのテレサ：ともに記念から表明へ”のテーマで主催します。全ラテンアメリカは、この催しに一致協力して参加しますが、大会実施の手配については、メキシコが主催国として責任をもつことになっています。

メキシコの跣足カルメル女子修道会連合“グアダルペの聖ヨセフ”も、聖テレサの著作を読んで準備を進めています。連合の会長である贖い主イエスのアナ・マリア修道院長は、「私たちは、今『靈魂の城』を学んでいます。同じ跣足カルメル女子修道会の共同体で、聖女の著作という源泉から共に飲むことにより、私たち自身の霊性が深められるため、とても豊かな経験です。学ぶことの他に、シスターたちの創造性は、共同体ごとに変化に富む、意味深い方法で、住居を描写した合唱用の詩、歌、きれいな挿し絵などに発揮されています。」と話しました。

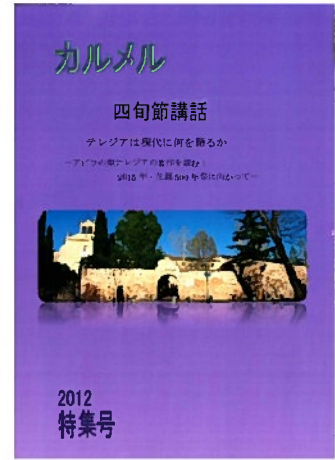
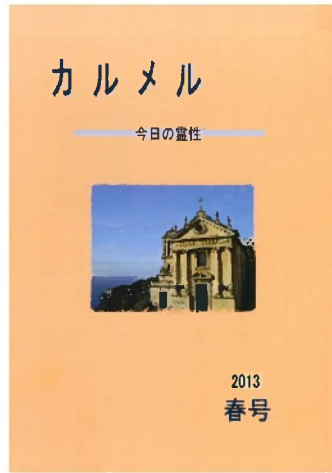
跣足カルメル・メキシコ在世会の会長、ホアン・カルロス・Ch.・オロスコ氏は、聖女の著作を読むことの他に、在世会では、聖テレサに中心を置いたテーマでの黙想会を、共同体、地域、国レベルで準備していると述べました。

メキシコの跣足カルメル男子修道会の出版部、「イエスの聖テレジア出版」は、年間カレンダーを、聖女の靈性をより広く紹介し、友なる祈りという聖女のメッセージを個々人により親しんでもらえるように、家族のために発行しました。このようにして、私たちの母であり創立者であるテレジアのメッセージが、家々の中に日々慎ましく現存することになります。

同じように、毎年、聖テレサの主要著作の読書の手引きが出版されます。今年は『靈魂の城』が作られました。これらの本は、目で見るとラベルガイドのスタイルで各章を解説し、靈的旅のガイドでもある聖テレサの教えを読者に紹介し、彼らが祈りの中に入り、そこに留まるように招きながら、単純明快な説明を心がけています。



「カルメル」
今日の靈性・春号
特集号



2013 春 No.348

カルメル 2012 特集号

「テレジアは現代に何を語るか」

砂漠の修道院に入る (4)	ヤコブ神父 郵便だよー!	修道院生活 春夏秋冬 (7)	日本におけるエディット・シュタイン
奥村 一郎	森 みさ	高橋重幸	須沢かおり
49	43	37	31

二人の教会博士「イエスの聖テレサ」と 「アウイラの聖ヨハネ」	アウイラの聖テレジアに見る 「神の憐れみ」の体験 (1)
松田浩一	九里 彰
17	25

● 目次 ●	● 目次 ●
「完徳の道」に見る「祈りと生活」	「創立史」にみる信仰の歩み
九里 彰	松田浩一
10	22
三位一体の神との交わりの崇高な神秘体験、 地上に苦しむキリストの神秘体との連帯	「靈魂の城」に聴きながら
渡辺幹夫	中川博道
46	35
信仰年に 聖テレサに導かれて (1)	「今年の特集 イエスの聖テレジアと信仰」 信仰を生きたる (1)
伊従信子	九里 彰
9	3
テレジアの涙	「完徳の道」に見る「祈りと生活」
新井延和	九里 彰
2	10

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費 (年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+ 送料【700円】計 3,000円) を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～ '14年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 木曜黙想会 (毎回木曜日 10時～16時) 予約は3ヶ月前より受け付けします。

2013年度 年間テーマ 「信仰と宣教」

7月 4日	「弟子たちの不信仰と異邦人の信仰」	福田正範神父
11月14日	「カルメルにおける宣教」	中川博道神父
12月 5日	「神の愚かさ、宣教の愚かさ」	福田正範神父
2014年		
2月20日	「復活の主の第一の使信」	福田正範神父

2. 金曜黙想会 (毎回金曜日 10時～16時) 予約は3ヶ月前より受け付けします。

2013年

6月 7日	「カルメルの霊性・ロスアンデスの聖テレサ」	古川利雅神父
10月 4日	「カルメルの霊性・ラウレンシオ修士」	古川利雅神父
2014年		
1月24日	「カルメルの霊性・聖母マリア」	福田正範神父

3. 奉献生活者の為の黙想会

2013年

7月29日 (月) 18時～	8月 7日 (水)	九里彰神父
8月12日 (月) 18時～	8月21日 (水)	福田正範神父
10月 7日 (月) 18時～	10月12日 (土)	福田正範神父
12月27日 (金) 18時～	2014年1月5日 (日)	古川利雅神父

4. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2013年

11月 2日 (土) 15時～ 4日 (月・振休) 16時

5. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2013年

9月21日 (土) 15時～23日 (月・休) 16時

6. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2013年

5月24日(金)20時～26日(日)16時

11月 8日(金)20時～10日(日)16時



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院（黙想）

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

特別黙想会 《わたしは神をみたい》

さらに 深く信じさせてください

2013年5月24日（金）20時～26日（日）15時

「信仰年」にあたり

日々の生活のなかで復活されたキリストと出会うために

しばらく神のみ前に 静かなひとときを過ごしてみませんか？

信仰は 神がわたしたちのために行われる

不思議なわざを
いつも新たに見出すことを可能にしてくれる

生涯の伴侶です。

信仰は 今の歴史の中に時のしるしを

見出そうと目を凝らしながら
わたしたち一人ひとりが
世における

復活した主の現存の生きたしるし

となるよう促します。

教皇ベネディクト十六世 『信仰の門』



- 指 導： 伊従 信子 （ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品： 新約聖書、『いのりの道をゆく』聖母文庫、聖母の騎士、筆記用具、パジャマ
- 参加費： ￥12000
- 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
158 - 0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 Tel 03-5706-7355
- お申込み： F A X：03-3704-1764 Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp
または、ハガキにてお申込み下さい。



講座のご案内

■場所：カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当：中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



カルメルの靈性に親しむ

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:15~20:45≫

5月17日
6月21日
7月19日
10月18日

生ける神との出会いを探して

—靈性神学入門講座 / リスト教入門講座—

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:30~21:00≫

3	5月10日	「わたしは誰？」(1)
4	5月24日	「わたしは誰？」(2)
5	6月14日	「人間の問題性」(1)
6	6月28日	「人間の問題性」(2)
7	7月12日	「信仰を生きるとは？」
8	7月26日	「人間の問題性に関わる神」
9	9月6日	「イエス・キリストに出会う」
10	9月20日	「福音が語るイエス・キリスト」

お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

2013年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】 1泊2日 (午後5時～午後4時)

5月25日(土)～26日(日) 三位一体の中で祈る	今泉健神父
7月13日(土)～14日(日) 信仰宣言に生きるカテキズム	松田浩一神父
9月7日(土)～8日(日) 牧者キリスト	今泉健神父
11月2日(土)～3日(日) 信仰と行い	九里彰神父

【聖書深読黙想会】

- 1日黙想 (午前10時～午後4時)

6月1日(土)	九里彰神父
9月14日(土)	九里彰神父
11月30日(土)	九里彰神父

- 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

5月15日(水) 信仰年における聖母マリア	松田浩一神父
6月26日(水) 靈魂の城	今泉健神父
7月24日(水) 信仰の種	九里彰神父
8月4日(水) キリスト信者の靈的生活のカテキズム	松田浩一神父
9月16日(水) アピラの聖テレジアとイエス	今泉健神父
10月13日(水) キリスト教神秘を祝うカテキズム	松田浩一神父
12月18日(水) クリスマスを迎える心	今泉健神父

- 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

12月14日(土)～12月15日(日)	松田浩一神父
---------------------	--------

人間となった神の子への信仰

- 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)

9月30日(月)～10月1日(火)	伊従信子師
-------------------	-------

カルメル青年黙想会 (午後5時～午後4時)

11月9日(土)～11月10日(日)	今泉健神父
--------------------	-------

キリストはあなたを呼んでいる

【一般のためのカルメルの靈性入門】

10月26日(土)～10月27日(日) (午後5時～午後4時)	松田浩一神父
---------------------------------	--------

「テレサ的カルメルの靈性 No.1」

奉獻生活者の黙想（午後5時～午前9時）

8月2日(金)～8月11日(日)	松田浩一神父
8月17日(土)～8月26日(月)	今泉健神父
12月27日(金)～1月5日(日)	松田浩一神父

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時
12月24日(火)～12月25日(水) 【講話なし、各食事つき】



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 , Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

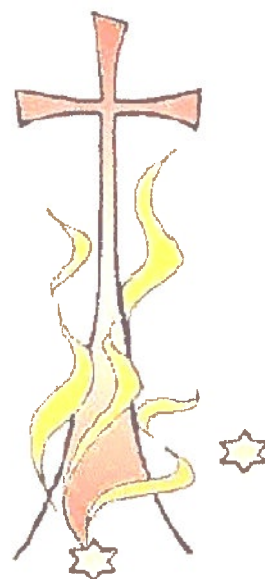
【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|-------------------|
| ① | 2013年 | 1月25日(金)～26日(土) |
| ② | | 2月8日(金)～9日(土) |
| ③ | | 3月8日(金)～9日(土) |
| ④ | | 4月12日(金)～13日(土) |
| ⑤ | | 7月12日(金)～13日(土) |
| ⑥ | | 9月6日(金)～7日(土) |
| ⑦ | | 10月11日(金)～12日(土) |
| ⑧ | | 11月22日(金)～23日(土) |
| ⑨ | | 12月6日(金)～7日(土) |
| ⑩ | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土) |
| ⑪ | | 2月21日(金)～22日(土) ☆ |
| ⑫ | | 3月28日(金)～29日(土) |
- (毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

…～都会の中の一泊静修～（2013）…

(テーマ) 信仰年の課題 「イエス・キリストのセンスを磨く」 …2000年の時を貫いてきた教会の信仰…

「『信仰の門』（使徒言行録 14・27）は常にわたしたちに開かれています。それはわたしたちを神との交わりの生活へと促し、神の教会へと導き入れてくれます。神のことばがのべ伝えられ、わたしたちを造り変える恵みによって心が形づくられるとき、わたしたちはこの門を通ることができます。この門に入るとは、生涯にわたって続く旅に出発することです。

信仰は、それを愛が与えられる経験として生き、恵みと喜びの経験として伝えられることによって、成長します。信仰はわたしたちを豊かにします。」（「信仰の門」より）

今年の信仰年は、わたしたちを「キリストのように考え、キリストのように話し、キリストのように行い、キリストのように愛する」ことへと招いています。この呼びかけに従って生きることは、わたしたちの中にキリストのセンスを磨いていきます。

「一泊静修」が、信仰のうちにキリストを生き抜いた先達たちの生き方に学ぶ一助となりますように。

回	月 日	テーマ	
第1回	1月14日(月)	信仰年を生きる「信仰の門」を巡って —イエスご自身の信仰—	中川博道神父(上野毛修道院)
第2回	2月23日(土)	マリアの信仰	Sr.パウリン(宣教カルメル修院)
第3回	3月23日(土)	テレーズの信仰	三上和久神父(三馬修道院)
第4回	4月13日(土)	使徒たちの信仰	今泉健神父(宇治修道院)
第5回	5月11日(土)	初代教会の信仰	松田浩一神父(宇治修道院)
第6回	6月22日(土)	殉教者の信仰	九里彰神父(本部修道院)
第7回	7月13日(土)	イエスの聖テレサの信仰	古川利雅神父(上野毛修道院)
第8回	9月7日(土)	聖家族の信仰 家庭・職場・地域で信仰を生きる	伊従信子師(ノートルダム・ド・ヴィ)
第9回	11月23日(土・祝)	十字架の聖ヨハネの信仰	福田正範神父(上野毛修道院)

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話(1)
 - 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 11:50～ 昼の祈り・お告げの祈り
 - 12:15～ 昼食
 - 12:50～ 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 13:30～ 講話(2)
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00～ 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキか FAX で、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

一泊静修連絡係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

2013年度名古屋聖書深読会

第1回 10月26日(土)

九里彰神父(本部修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名もご記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教え(み言葉)に関心のある方なら、どなたでも構いません。

☎ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

☆ 連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX 052-701-3685

土曜フレックスタイム静修

毎月第3土曜日 13:30 ~ 16:00 の予定で行います。

御自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき（来る時間も帰る時間も自由）、
靈的にだけでなく、心身ともにリフレッシュできる時間として御利用下さい。

日時 毎月第3土曜日 13:00 ~ 16:00

場所 三馬教会（石川県金沢市）

プログラム

13:30 ~ 15min. 聖書朗読、短い講話

14:30 ~ 15min. ベネディクション、聖体顕示

15:30 ~ 15min. 聖体拝領

16:00 ~ サルヴェレジナ、終了

各合間の時間は、各自自由に黙想しながら祈る時間です。



靈性センター

毎月第2日曜日 14:00 ~ 15:00 カルメル靈性センターの講話があります。

日曜日、午後の一時、心の耳を澄ませてみましょう。

日時 毎月第2日曜日

場所 三馬教会（石川県金沢市）

プログラム

14:00 ~ 講話（講師：カルメル会士）

15:00 ~ ミサ

カルメル靈性センター

〒 921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父迄

Tel. 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
コングレガシオン・ド・ノートルダム アソシエート
サダナ瞑想
CWC (キリスト者婦人の集い)
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072-802-5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2013年予定

- K 3 6/7 (金) -6/9 (日) 東京・小金井・聖霊会 (研修会 2泊3日)
- M 2 6/23 (日) -6/29 (土) 宝塚売布・女子御受難会
- T 1 7/22 (月) -7/28 (日) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
- K 4 8/24 (土) -8/30 (金) 東京・小金井・聖霊会
- M 3 9/10 (火) -9/16 (月) 宝塚売布・女子御受難会
- N 3 9/28 (土) -10/4 (金) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 5 10/12 (土) -10/18 (金) 東京・小金井・聖霊会
- T 2 10/28 (月) -11/3 (日) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
- N 4 11/25 (月) -12/1 (日) 滋賀唐崎・ノートルダム

2014年予定

- K1 1/25 (土) -1/31 (金) 東京・小金井・聖霊会
- K2 3/22 (土) -3/28 (金) 東京・小金井・聖霊会

真命山の靈性



イエス様に祈りを学ぶ



祈りの集い（午前10時～午後3時）
年間の一般のテーマ： イエス様に祈りを学ぶ

自然

神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで

祈り

静けさ

沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かち

交わり

- 1月10日 ナザレの聖家族の生活における祈りの重要性
- 2月14日 イエスの生涯における祈り
- 3月14日 死を前にしたイエスの祈り
- 4月11日 最後の晩餐におけるイエスの祈り
- 5月9日 イエス・キリストのメシアとしての喜びの賛歌
- 6月13日 いやしの奇跡とかかわるイエスの祈り
- 7月11日 主よ、私たちに祈りを教えてください！
- 8月 休み
- 9月12日 イエスの「大祭司の祈り」（ヨハネ17）
- 10月10日 神との関係における沈黙の大切さ
- 11月14日 イエスと神殿（ルカ2,46 ヨハネ2,21）
- 12月12日 神の「幕屋」であるイエス（ヨハネ1,14）

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父
（真命山院長）
ダニエレ サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133
熊本県玉名郡和水町1391-7
真命山諸宗教対話・靈性交流センター
TEL 0968-85-3100
Fax 0968-85-3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラム等に関してはHP(文末)を見て下さい。

2013年度のテーマ:

超越理解と理性の自己発見 — I 古代と中世
「古代と教父時代」(BC 5世紀—AD 6世紀)
[古典古代]

5/11、5/18、5/25、6/01

[教父時代]

6/08、6/29、7/06、7/13、7/27、9/07、9/14

●ミサ

水曜日 17時10分—18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分—20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月13日は休み。8月27日はクルトゥルハイム聖堂

・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分—12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日は休み。

・水曜日 18時—18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂
どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み

・「通う霊操」8月24日(土)—9月1日(日)18時—20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分—16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室

講話、黙想、ミサがあります。

5月11日、6月8日、7月6日、8月10日、9月7日、10月12日、11月9日、12月7日

2014年1月11日、2月8日、3月1日

・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分—16時50分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、小聖堂

●黙想会

[関東] 1泊6,600/6,800円程度。

06月15日(土):10時—16日(日)14時(東村山)

09月28日(土):10時—29日(日)14時(東村山)

11月16日(土):10時—17日(日)14時(上石神井)

2014年

03月08日(土):10時—9日(日)14時(上石神井)

[関西]

10月5日(土)13時30分—6日(日)15時(宝塚)

●坐禅会

・月曜日 17時20分—20時10分

・木曜日 18時—20時30分

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。但し祝日、5月2日、8月全体、12月26日、30日、1月2日は休み
3回坐り、間に講話

●坐禅接心

[秋川神冥窟] 1泊2400円(+暖房費)程度。

6月21日(金)20時30分—23日(日)13時

8月10日(土)20時30分—17日(土)10時

9月20日(金)20時30分—24日(火)10時

11月1日(金)20時30分—11月4日(月)13時

[宝塚市]

・4月13日(土)13時30分—14日(日)16時

7月30日(火)17時45分—8月5日(月)15時

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時—18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室
6月30日(日)、10月20日(日)、2014年1月25日(土)

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2013年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 5/10 理性と神認識の道— 世界内存在を通して
5/17 創造された世界— 人間存在の根拠と自然の意味
5/24 歴史と信仰— 神との出会い
5/31 内なる神— その「似姿」としての人間
6/07 新約聖書の神理解— 主なる父
6/14 祈りによる神理解— 神の偉大さと近さ
6/15-16●黙想会(東村山)
6/21
救い主の役割— 人類の待望
6/28 神の国— イエスの告げるメッセージ
7/05 イエスの生き方— 神に遣わされて人に仕える
7/12 イエスの譬話— 神の働きを語る
7/19
イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に
7/26 イエスは誰か— イエスの自己理解
7/27 ◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)
8/02,8/16○休み
8/09
最後の晩餐— 自分を与えるイエス



リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2013年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [人生の基礎づけ]
5/07 人生の目標— 神の「似姿」としての真なる人間
5/21 人間以外のものの意義— 世界の使用と聖化
6/04 創造・歴史・救い— イエスという中心
6/15-16●黙想会(東村山)
[倫理的行為]
6/18 行為の規範— 人間らしさと神の呼びかけ
7/02 自己実現— 責任と自由
7/16 性格の形成— 自己受容と善への憧れ
7/27 ◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2F、80人限定)
7/30 ○休み
8/06 人間の弱さ— 誘惑と罪
8/20 魂の癒し— 恩寵・心の入れ替え・ゆるし(上智大学内クルトゥルハイム2F)
8/24-9/1 ●通う霊操(18時—20時45分)

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」 すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの霊性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2013年
5月25日（土）

講話 片山はるひ

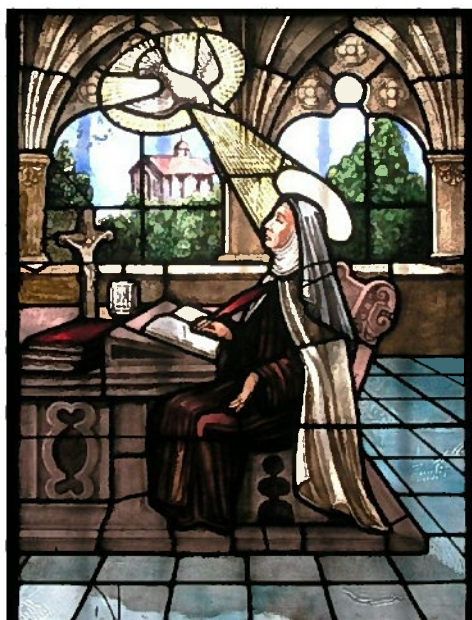
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-3
2-35

TEL(03)・3594・2247
FAX(03)・3594・2254
E-mail notredamedevic.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv-jp.org/>



カルメル会の霊性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

- ◎ 所在地：〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel：077-579-7580 Fax：077-579-3804
E-メール：karainorind92@mbe.nifty.com
- ◎ 交通：JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩 約13分
- ◎ 日程：
 - A. 8日間の個人指導による黙想
初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。
② 8月14日(水)～22日(木) ③ 9月27日(金)～10月5日(土)
④ 12月27日(金)～2014年1月4日(土)
 - B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)
【神との親しさの中で日常を生きるために】
④ 6月14日(金)～16日(日) ⑤ 7月12日(金)～14日(日)
⑥ 11月1日(金)～3日(日) ⑦ 11月29日(金)～12月1日(日)
 - C. 講話 黙想(奉獻生活者のため)
5月26日(日)～6月3日(月) 北村 善朗 師 (京都教区)
- ◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 霊的同伴者：司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み：1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。
いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。
- ◎ その他：司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

主に選ばれる恵み わたしは主のはしたためです

2013年第一回 召命黙想会

日時：**5月18日(土) 15:00～**
19日(日) 15:30まで

場所：ノートルダム唐崎修道院
(JR京都駅から30分)

指導：山内 十束 神父 (御受難会)

対象：独身女性信徒

費用：2,000円

締切：2013年5月12日(日)

＜申込み・問合せ＞

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel 077-579-2884 Fax 077-579-3804

Email karainorind92@mbe.nifty.com

【一日静修へのおさそい】

テーマ：現代において神さまを信じるということ

指導：雨宮 泰紀神父（サレジオ修道会司祭・サレジオ学院幼稚園園長）

日時：5月25日（土）10：00～16：00 受付 9：30～

場所：コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

〒182-0034 調布市下石原3-55-1

対象：男女・年齢を問わず、どなたでもどうぞ

会費：2,000円（お弁当代を含む）

申込み：5月18日（土）まで。電話 [042-482-2012]

FAX [042-482-2163]

受付時間 午前9：00～午後6：00

定員：80名まで受け付けます。

主催：コングレガシオン・ド・ノートルダム アソシエート

*当修道院は新宿より京王線で調布駅下車。北口を出て、線路沿いに西調布駅方面に歩く。立体交差の下をくぐり左折。踏切を渡って200m歩き、二つ目の信号の右手（鶴川街道沿い）マルガリタ幼稚園内。徒歩で20分。タクシーで5分。



サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

★申込み受付・・開始日の8日前で締切ります

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
自己を知る *1泊2日× 2=合計4日	5/11(土)9:30- 5/12(土)17:00 5/18(土)9:30- 5/19(土)17:00	Fr植栗	町田祈り・研修の家	若山美知子※ TEL/fax 03-5802-3844
サダナ I	5/30(木)17:30- 6/2(日)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院 Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720	申込み: Sr 比嘉
日帰り (注)	6/9(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
入門 B	6/23(日) 9:30-17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
サダナ I	7/12(金)17:30- 7/15(月)16:00	Fr ラフオント	女子御受難会修道院 (宝塚)	大倉本子 Tel:078-811-2706
サダナ I	7/12(金)17:30- 7/15(月)昼食	Fr植栗	小金井聖霊修道院	若山美知子※
霊操と II	8/17(土)17:30- 8/26(月)朝	Fr植栗	広島市・西日本霊性センター(長束黙想の家) 申込み:西日本霊性センター「こもれび」 Sr 田中 Tel 082-239-0034/Fax239-0036	
日帰り (注)	9/1(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 105号室	若山美知子※
入門 C	9/8(日) 9:30-17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
サダナ II	9/12(木)17:30- 9/16(月)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院 Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720	申込み: Sr 比嘉
サダナ I	9/20(金)17:30- 9/23(月)16:00	Fr植栗 FrA.マルコ	シャルトル聖パウロ会盛岡修道院 (盛岡市) 申込み:伊藤律子 TEL090-4478-0088	

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

(注) 日帰りはサダナ I を終えた方

*サダナ I = 体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

*サダナ II = I をいっそう深める。身体・感情・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

CWC (キリスト者婦人の集い)

カルメルの霊性に学ぶ

『完徳の道』

場所：真生会館 10:30～12:00

6月11日（火）『完徳の道』第32～第33章

7月9日、9月10日、11月12日、12月11日



東京都新宿区信濃町33番地4 真生会館ビル

TEL：03-3351-7121（受付代表）

<http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp/>

九里彰神父（カルメル会日本管区長）

慈しみ深き会

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて

—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会信徒会館3Fアルペホール 14:00～16:00

7月からは「岐部ホール」。12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

6月12日（水）『靈魂の城』第5の住居の第1章

7月10日、9月11日、11月13日、12月12日

アビラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

少しの時間、**新刊案内**
いのりのみ言葉に
耳をかたむけてみませんか

わたしは神をみたい **いのりの道をゆく**
マリー・エウジェンヌ神父とともに



伊従信子編・著

師は、神と親しく生きるように神が多くの人々を呼んでおられること、そして、その人々を神との一致にまで導くように、神が自分を召されたことを自覚していました。ですから、師はその生涯の終わりまで、社会で日々の生活を営むすべてのキリスト信者が聖性に召されていることを強調し、聖性への道を提供する務めを使徒職とする人々の養成を熱く望んでいました。
〔「はじめに」より〕

ISBN978-4-88216-339-8 C0195

268 281頁 定価630円(税込)

▼▼▼こちらもおすすめ!▼▼▼



神と親しく生きる **いのりの道**

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに

R. ドグレール/J. ギシャール著

伊従信子訳

現代の狂騒の中で、大切な何かを見失っていないだろうか……真理、善、美、生きる意味、神との関わりを捜し求めている人たちへ送るメッセージ。

ISBN978-4-88216-307-7 C0195

246 207頁 定価525円(税込)

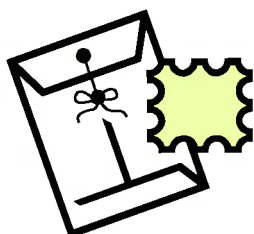
聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

ご注文・お問い合わせ先



霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



『霊性センターニュース』年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。

例：1月申込の場合は、2月号～12月号（8月号休刊除きます）

この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1764

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



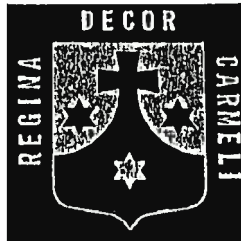
編集後記

そそっかしい人は、私の他にも大勢いる。買い物に行って、代金を支払った後、肝心の買った物を忘れ、外に出ようとして、レジの人に注意されるという経験を、だれもが一度や二度、持っているのではないだろうか。（「ある！」と言ってください。）

先日、買い物ではないが、名古屋駅の地下街で遅い昼食を取った。食事を終え、レジの方へ向かうと、レジの女性が、パーアツと外に飛び出していった。「お婆さん、お婆さん、まだお釣りがありますよ」。レジの女性がお婆さんともどってきて、お金を渡している。「一万円なんですから一、お釣りがあるんですよ」。どうやら、そのお婆さんは、数百円の昼食代を払うために一万円札を渡した後、お釣りももらわず外に出て行ってしまったようである。始まっているのかもしれないが、お金に執着しないところは、なかなかいい（浪費癖も困るが）。

だれも、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。（マタ 6・24）

（P. 九里）



製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に[毎月最終週の火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「6月号」製本日

[5月28日\(火\)](#) 上野毛教会信徒会館ホール 1階

午後 1 時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171